

日時：平成16年2月14日（土） 13:00～17:00

場所：海洋科学技術センター 東京連絡所 セミナー室

出席者：執行部 徳山・荒井・伊藤・井龍・加藤・木村・佐柳・徐・巽
部会長補佐 斎藤 事務局 山川・西川

【乗船研究者の選出について】

- ・ 2月13日現在の応募状況を事務局より説明。
- ・ Lomonosov 航海について IO へ名簿を送付済み。今回は初めての乗船研究者推薦であったため、手続き上の課題が見えてきた。次回の乗船研究者推薦作業に向けて、課題と対応方針をまとめる（荒井・斎藤）。
- ・ ESSAC より、Lomonosov 航海について、日・米・欧の乗船研究者の人数比を変えてもらいたい旨の打診があった。これに対しては、IODP 覚書上は特に制限なく、事務的には可能なことであるとの見解を回答済み。
- ・ 海外（アジア）からの乗船研究者応募について引き続き検討する（関係各方面と調整）。
- ・ 乗船研究者の募集要項のうち、応募書類はすべて英文で提出することに統一する。（事務局にてホームページの修正）

【通称「IODP の国内科学計画第2版」の作成について】

- ・ 今月末までにすべての現行を完成させ、印刷に回す。
- ・ 3月上旬に開催される深海掘削委員会で配布。
- ・ 本書のタイトルは、「IODP における我が国の科学戦略」で最終調整予定。
- ・ 英語版の作成も急ぎ、3月末の国際ワークショップでドラフト版を配布できるように作業を進める。

【予算要求への対応について】

- ・ 巽執行部員より、深海掘削委員会に提出予定の、IODP 科学支援体制に関する提言（案）について説明があった。
- ・ 来月の深海掘削委員会に向け、MEXT との調整を進める。
- ・ 平成17年度予算要求への対応も要検討。

【専門部会・国際パネルへの対応について】

- ・ 科学計測専門部会(2月6日)の開催報告があった。
- ・ 科学計測専門部会から提案された情報システム WG の設置について審議された。以下の3点を解決するという条件付きで設置が承認された。(1) 活動期間 を2年とする。(2) 微生物の専門家の加入。(3) WG の3つのタスクのうちの1つである「J-CORES の開発・運用に関する検討」に関し、本WGに対する検討依頼書の提出を CDEX に要請し、

WGの任務を明確にする。なお、3月4日の開催される本WG委員候補者による会合は「科学計測専門部会情報システムワーキンググループ設置検討会」として開催することが認められた。

- ・ 科学計測専門部会より、退任する木川 SciMP 委員の後任として、東大地震研究所の笠原氏を選任することが報告され、了解された。今後事務手続きを進める。
- ・ 技術開発推進専門部会（2月9日）の報告があった。今回は、特に ILP の委員選出問題等について、集中的に審議が行われた。ILP のマンダートの問題、ILP 委員の選任については、引き続き専門部会等で協議を進める。必要あれば、産業界との連絡懇談会を開催する。
- ・ ILP への出席者については、選任作業を大至急進める。本件は、木下技術開発推進専門部会長と徳山部会長を中心に対応する。（2月18日に出席者が最終確定した；木下技術開発推進専門部会長・青木地下圏微生物専門部会委員）
- ・ SPC/PANCH の事前打合せを3月10日午後（3時～5時）に開催する。
- ・ SPC から提出を求められていた、IODP 出版に関する J-DESC の見解が SPC へ送付された。

【年度末までの予定について】

- ・ 3月3日 地球環境・地下圏微生物専門部会
- ・ 3月4日 科学計測専門部会情報システムワーキンググループ設置検討会
- ・ 3月6日 地球内部専門部会
- ・ 3月8日 孔内計測ワーキンググループ
- ・ 3月10日 SPC/PANCH 事前打合せ
- ・ 3月30日 国際ワークショップ「A new Science Created by IODP in Asian Waters」

【次年度計画について】

- ・ 平成16年度活動計画の作成作業を開始する。斎藤部会長補佐がたたき台（マスタープラン）を作成し、これに必要事項を加える形で作業を進める。
- ・ 活動計画については、会員総会で承認を求める。

【会員総会について】

- ・ 4月4日（日）13時～16時、東大海洋研で開催予定。
- ・ 陸上掘削部会側に日程を打診する。同時に、IODP 部会幹事会には現在の案として4月4日開催の予定を通知しておく。
- ・ 総会前に、陸上掘削部会暫定幹事会との合同協議会を開催する。
- ・ 規約改正案が検討された。陸上掘削部会暫定事務局へ送り、意見等を求める。陸上掘削部会からコメントが戻った後、執行部で最終確認し、部会幹事会へ規約改正案を提出する。
- ・ 予算案を作成する。陸上掘削部会暫定事務局と IODP 部会事務局が協議のうえ、原案を作成する。
- ・ 決算について、会計監査を行う。（実施方法は今後事務局中心に検討）

【コンソーシアム広報について】

- 大学キャンペーンについては、九州大学・宇都宮大学で実施準備中。あと数機関（大学）候補をあげて調整を行う。大学キャンペーンについては、コンソーシアムにおける IODP 広報活動の現状として、深海掘削委員会でも報告する。
- IODP Education and Outreach Workshop（2月20～23日@米国）に巽執行部員・斎藤部会長補佐が出席し、J-DESC における広報対応の現状について説明する。また、このワークショップでは、IMI における Education and Outreach の定義、各国の National Program との業務分担等が議論される予定。
- 2月22日に全国科学館連携協議会の科学館学芸員研修会において、IODP 計画及び IODP の広報に関する講演を行うこととなった（JAMSTEC と共同で対応する）。木村執行部員が講演を行うこととなった。
- 3月30日に、国際ワークショップ「A new Science Created by IODP in Asian Waters」を J-DESC・JAMSTEC・AESTO の共催（MEXT 後援予定）で開催する。シンポジウムの責任者は巽執行部員。今後コンソーシアム事務局、JAMSTEC 担当者、AESTO 担当で準備を進める。プログラムが決定次第、ホームページ、メーリングリスト等で周知する。

【その他】

- 平成16年度に執行部員を増員し、IODP 部会の運営体制を強化することが提案された。今後継続審議する。
- 部会長補佐を補佐する役割の担当者を置くことを今後検討する。

以上